

松下幸之助記念財団 研究助成  
研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】谷口 京子

【所属】(助成決定時) 広島大学大学院国際協力研究科

【研究題目】コミュニティ参加と学校経営の内部のメカニズム及び相互関係—マラウイの小学校を事例として

## 【研究の目的】(400字程度)

本研究の目的は、マラウイを事例とし、(1)生徒の成績が向上する学校経営の要素とメカニズム、(2)コミュニティの特性をふまえたコミュニティ内部の意思決定メカニズム、(3)学校とコミュニティの間の動的な関係を明らかにすることである。コミュニティ参加型の学校経営は、1990年以降、途上国で盛んになってきた形態であり、コミュニティに学校に対するオーナーシップを持たせ、モニタリングなどの形で学校経営に参加させることにより、経営を健全化し、教育の質を向上することができると考えてきたからである。しかし、実際には、コミュニティ参加が積極的に行われている学校とそうではない学校が存在する。コミュニティが何を求めて学校に参加しようとするのか、コミュニティの活動がどのように生徒の成績に結びついているのかについてのメカニズムを明らかにする研究は、未だ行われていなかった。そのため、本研究は、コミュニティ参加を促進させるために、コミュニティ参加と学校経営の関係について深く解明することが目的である。

## 【研究の内容・方法】(800字程度)

研究方法は、表1に示す学校要因(学校施設や生徒1人あたりの生徒数、生徒の家庭要因(保護者の教育水準、保護者と住んでいる割合、保護者の経状況)が統制した6校において、(1)生徒の成績が向上する学校経営の要素とメカニズム、(2)コミュニティの特性をふまえたコミュニティ内部の意思決定メカニズム、(3)学校とコミュニティの間の動的な関係を追跡調査することである(この6校は、2010年から調査している)。長期的に成績が向上または低下している学校を重点的に調査することで、メカニズムをより動的にとらえることができる。

表1: 6校における学校要因と生徒の家庭要因

学校	国家試験の合格率の平均(07-09)	地域性	村の数	外部からの援助	距離(km)	教員1人あたりの生徒数	教科書1冊あたりの生徒数	教室1つあたりの生徒数	トイレ1つあたりの生徒数	教員中有資格者の割合(%)	父親の教育水準 <sup>(2)</sup>	母親の教育水準 <sup>(2)</sup>	父親と住んでいる割合(%)	母親と住んでいる割合(%)	保護者の経済レベルのランク <sup>(3)</sup>	
															親常用電気機器	キッチン用電気機器
A	91	農村	2	無	3	70	4	79	32	89	4.17	3.79	87	81	0.09	0.20
B	89	農村	4	無	0.3	64	7	64	43	88	3.83	3.06	54	69	-0.33	-0.26
C	88	農村	2	有	0	105	8	79	39	100	3.69	2.85	56	73	-0.21	-0.30
D	83	農村	3	有	0.2	101	8	114	144	100	4.33	3.81	78	94	-0.05	-0.15
E	51	農村	7 <sup>(1)</sup>	有	3	82	8	66	36	100	3.74	3.36	74	76	-0.27	-0.36
F	51	都市	4	有	3	70	7	94	141	88	4.27	3.74	65	73	-0.04	-0.24

注: (1)児童の多数は、3つの村から通っている。(2)1=学校へ行かなかった、2=小学校中退、3=小学校修了、4=前期中等教育修了、5=後期中等教育修了、6=技術専門学校、カレッジ、大学など。(3)児童に家庭に16品目があるかどうかアンケートを行った。その結果を因子分析し、学校間で比較した。(4)2009年度から実施されたため、2007年~2009年の平均が出せなかった。出所: EMIS(2007~2009年)。

研究内容は、図1に示すように、学校経営の要素とメカニズム、コミュニティ参加のメカニズム及び学校とコミュニティの相互関係を成績の高い学校と低い学校を対比することにより分析する。

### (1) 学校経営の要素とメカニズム

半構造化インタビューやグループ・インタビューを用い、**効果的な学校経営の要素**（教員の勤務状況、授業時間の管理、補習授業の実施など）について分析する。また、教員の真面目な勤務態度や補習の実施等の諸要素を生み出しているメカニズムを明らかにする。

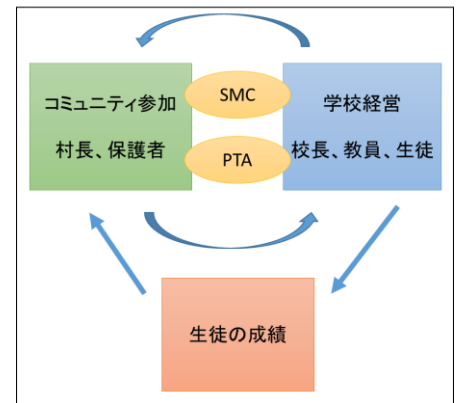
### (2) コミュニティ参加の要素とメカニズム

半構造化インタビューやフォーカス・グループ・ディスカッションを用い、**コミュニティ参加が積極的になっている要素**（地域の特性、リーダーの選択のされ方、リーダーと校長や教員との関係など）を分析する。また、それらの要素がどのように絡み合っているのかそのメカニズムを明らかにする。

### (3) 学校とコミュニティの相互関係

学校経営とコミュニティのそれぞれの内部メカニズムをもとに、学校とコミュニティの相互関係について分析する。コミュニティが学校経営に積極的に参加することによって生徒の成績が向上しているのか、向上しているのならば学校とコミュニティはどのように関係しあっているのかについて明らかにする。

図1: 研究の枠組み



【結論・考察】（400字程度）

### 結論

学校経営やコミュニティ参加は、生徒の成績の高い学校と低い学校で大きく異なっていた。成績の高い学校では効果的な学校経営が行われており、コミュニティ参加も積極的であった。効果的な学校経営とは、校長がリーダーシップを発揮し、教員や生徒を規律し、授業時間を確保していたことであった。また、補習授業も計画通りに行われていた。コミュニティは、このような学校には満足、期待できるため、自分たちができる補助は行おうと積極的に学校経営に参加していた。さらに、コミュニティのリーダーをコミュニティのメンバー全員で選んでおり、「コミュニティは学校のものである」という概念があった。一方、成績の低い学校では、成績の高い学校に見られた特徴は見られなかった。すなわち、コミュニティ参加が積極的になるためには、校長や教員自身が生徒の成績を向上させるように自分たちの役割を果たし、コミュニティに満足、期待を与えることが必要であった。コミュニティは学校を支援することができても学校経営を変えることはできないと考えられた。